

光明

第39号
曹洞宗
大峰山
嶽林寺

〒379-1313
群馬県利根郡
みなかみ町月夜野1697
TEL.0278-62-6455
FAX.0278-62-6907
HP. <https://gakurinji.jp>

コロナ禍の先を見る

嶽林寺住職 鈴木潔州

コロナ禍も四年目に突入。昨年のうちにはなんとかなるのではないかと淡い期待は第八波の前にしばみまだまだ油断出来ない状況です。そのような状況の中、変化が見えて来たのも事実です。

まずは令和四年十月十一日、大本山總持寺で厳修された独住二十六世光潤道主律師法雲周行大和尚晋式に五侍者として随喜させて頂きました事です。その上、石附禪師のご慈慮を賜り十月十五日、大本山總持寺での二祖国師猷供諷經の焼香師を勤めさせて頂きました。コロナ禍嶽林寺の随行者は十二名と少人数でしたが身に余る光栄な事でした。寺での行事としては令和四年九月九日、三年ぶりに指月会（主催指月会実行委員会）が開催されました。例年ですと二百五十名と大勢の方に参加頂いておりますが人数制限を行い六十名と決定。とは言ってもコロナ感染症に用心している方も多くチケットが出るかどうか気を揉んでいましたがたちまちの内に完売という人気でした。九月二十四日から十月一日まで「時代を超えて二人展 水墨画」―明治から令和へ 青柳琴僊 青柳玲子―（主催 水墨のすすめ実行委員会）を小僧村（上津）と樂天亭（谷川）そして嶽林寺の三会場で開催、嶽林寺には三百名の皆さんに

お越し頂きました。さらに十月八日にはみなかみアートライブ（主催 群馬県教育文化事業団）が開催。おかげさまでチケットも完売し六十名の方々に参加頂きました。

嶽林寺は開創以来五百十八年と言う長い歴史を有しておりこの地の歴史を見続けて参りました。令和四年八月十三日、小川城主供養塔を建立し開眼法要を営みました。小川氏は嶽林寺開基家でありますがいつしかそのお墓は失われておりました。そこで小川城三代岡林斎の五百回忌を記念し開山墓地の一角に供養塔を建立したのも特筆すべき事でした。更には当山は貴重な仏像、仏画、禅画などを所蔵しています。令和四年八月五日～十九日、婦恋郷土資料館に当山所蔵の供養仏（天明三年浅間山大噴火で亡くなられた方々の菩提を弔う為に作られた仏像です）を資料館からの依頼で出展致しました。浅間山の噴火で約千五百人が亡くなられたそうですがその供養仏が現在十体確認され一体が嶽林寺にある千手観音立像です。婦恋郷土資料館に行かれた檀信徒から拝見させて頂きましたと連絡を頂き有難い事でした。コロナ禍で今までの行事がやむなく中止、延期していましたが嶽林寺は微力ながら宗門、地区の発展のために活動をして参りたいと念願しております。皆さんからも良きアイディアがあれば是非ともお聞かせ頂きたいと思っております。この一年が檀信徒の皆さんにとりより良き年になりますようお願いより祈り申し上げます。

みなさま
明けまして
おめでとう
ございます



描きたいことが
たくさんあって
ページが足りませんので
さっそくですが
今年のテーマに入ります

昨年10月
ここ嶽林寺で
とあるライブが
催されました
このようなチラシが
回覧板に入っていましたね

みなかみ
邦楽×人形芝居×朗読
アートライブ



邦楽と
人形芝居と
朗読の
ライブ？

芸術の秋でもあるし
大島に絶対足りない
知的センスを
補うために
行ってみる
ことに
しました
さっそく
観光協会に
TEL

今回は
その
ルポです
チケット
ありますか？

どんな
カンジ
なんだろう
お正月マンガの
ネタに
なるかな…

残りわずかです
早めに取りに
くることを
おすすめします

―と云われたように
先着60名のチケットは
ほぼ完売のようで
当日は
たくさんの方が
集まりました

観客は
大島も含めて
ほとんどが
年配の方でした
いらつしやい
ませ
あちらです

コロナ禍三年目の 大般若会・山門施食会修行

四月二十四日、午前十時より嶽林寺本堂で年間行事として一番大きな法要である大般若祈祷会、山門施食会をお勤めさせて頂きました。

コロナ禍のこの行事も三年目です。令和二年、令和三年と二年連続でお手伝いの僧侶もなく住職と弟子で法要を行いました。

お参りは檀信徒代表として小野総代長一人と言う寂しいお勤めでしたが、コロナ禍の厳しい状況でありやむを得ない措置として修行しておりました。今年もまだまだ楽観は出来ませんが、令和四年は町内寺院であるお二人のお寺さん（如意寺・常恩院）にお越し頂き弟子と随喜。お参りも役員さん

に参列して頂きました。

コロナ禍の前を考えると小規模な法要ですが、わずかでも良き方向に向かっていてののではと感じられた事でした。

法要では、昨年権大教師に補任され被着を許された黄衣をはじめて着させて頂きました。

本来であれば本山での焼香師法要（御両尊献供諷経）で着る予定でしたが都合により行事が延期になり、お寺での法要で身につける事が出来たのは良かったです。

檀信徒の皆様のご先祖さまを思うお気持ちによりお寺が護られています。

皆さまのおかげさまで黄衣を着ることが出来るようになり心より感謝申し上げます。

お天気は曇り、暑からず寒からずお勤めにはちょうど良い陽気でした。

境内のソメイヨシノは散りましたが山桜、八重桜が咲き出しておりました。役員の皆さんも法要に参列、お焼香をして頂き晴々としたお顔でお帰りになされました。

この後、各地区の檀信徒への塔婆、お札の配布は大変な手間ですが、よく勤めて頂き本堂にありがたいです。

今年こそは檀信徒皆さんに参列頂き盛大に法要が勤められればと念願しております。



山門施食会法要



法要後、小野総代長挨拶



大般若祈祷会法要

総代就任の ご挨拶



康 阿部
総代

此の度、嶽林寺様の総代と言う大役を拝命致しまして、大変身の引き締まる思いでございます。嶽林寺様と長く関わりのある檀信徒さんが多くいる中で、私でいいのかと自問致しましたが、鈴木潔州方丈様よりお話を頂き、少しでもお力になれるのであればとお引き受け致しました。未熟者でございますが、よろしくお願い致します。

鈴木方丈様におかれましては植茶方丈様の後を継がれて、嶽林寺又檀家さんの為に努力をされ、お寺に来てくれる皆さんに喜ばれる様な話を良く耳にします。又修行僧の指導者としても努めておられます。忙しい毎日を送る鈴木方丈様には感謝の気持ちでいっぱいです。檀家の一人として大切な菩提寺を守って行く責任があります。これから少しずつ先輩に教わりながら務めて行きたいと思っております。

合掌



勲 鈴木
総代

この度、嶽林寺役員総会に於いて総代という大役を拝命いたし、身の締まる思いでございます。

お寺の先代 植茶智龍方丈様には、大変お世話になり、感謝に堪えません。なかでも思い浮かぶことは、一九六八年に開催された明治百年記念事業として、東南アジア七ヶ国と沖縄に派遣された「青年の船」に乗船し、台湾・タイ・シンガポール・スリランカ・インド・マレーシア・フィリピンそして沖縄を訪問し、五十三日間の歴訪をさせて頂きました。

また、昭和五十八年あかぎ国体が群馬で開催された際に、皇太子殿下、美智子妃殿下（限上皇殿下夫妻）が太田市市民館に於いて「群馬の青年を語る」と題して懇談会が開催され、男女六名の一人に選出され、農業代表として発言することが出来ましたことなど、植茶智龍方丈のご指導のお陰と思っております。

また、鈴木潔州方丈のご指導で、墓石に木の雪が落ちること、先祖様が安らかに眠ることが出来ないとして、墓の移転をしました。これから総代として菩提寺 嶽林寺の為に微力ではありますが、尽力したいと思えます。

合掌



廣 関
総代

この度、嶽林寺総代をお受けすることになりました。

仏教に關しての知識や経験が全くない私のようなものが、総代という大役をお受けしていいんだろうかと迷いました。方丈様の是非という言葉にご返事はしたもの、今更ながらこれでよかったのかと思ひ悩むばかりです。

それでもお受けしたのですから前向きに考えなければと、自分自身に言い聞かせています。

昨今の世の中が、予想をはるかに超える速さで変化していく中で、何が正しく、何が間違っているのかさえわからなくなる時代になってしまいましたが、立ち止まって考える、仏教の教えの中に身を委ねて正しい道を導き出す、これから益々仏教との係りは重要になると思われ

ます。仏教は出会い、別れ、思いがけない出来事、すべてが縁であると考え、教えたつたと記憶しています。今回の総代という思いも寄らないお話も、縁であると考え、力不足は承知の上で、勉強させていただきます。皆様のご指導、ご教授をよろしくお願

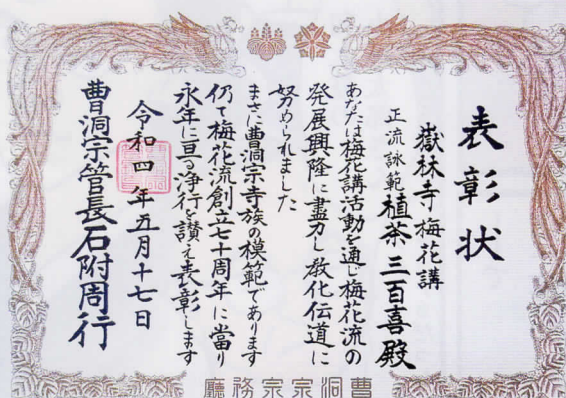
いいたします。

合掌

嶽林寺寺族「梅花流創立 七十周年記念表彰」を拝受

令和四年五月十七日、東京都港区の曹洞宗檀信徒会館で「梅花流創立七十周年記念」表彰式が行われました。コロナ禍のために最小限の規模にとどめられ、嶽林寺寺族は欠席でしたが事前に撮影された曹洞宗管長石附周行禪師のお言葉が放映され代表者が表彰されました。

嶽林寺寺族の植茶三百喜さんは曹洞宗梅花流正流詠範として群馬県宗務所講師、嶽林寺梅花講の指導を行なっております。長年にわたるこうした活動が評価され、曹洞宗宗務所より推挙されこの度の受賞となり、表彰状と記念品のバッチを頂戴致しました。これからも益々の活躍が祈念されます。



午後1時
ライブは本堂で
始まりました
どうぞ
楽しんで
下さい



第一部は
和楽器の演奏です
右向きに椅子が
並べてありました
それぞれ
好きな場所に
座ります



暗幕を引き
照明を消した本堂に
ローソクの
灯りだけが
美しく
厳かに
浮かび上がっていました



ここで紹介します
演奏者は
この方たちです

尺八と篠笛の
佃 康史さん

津軽三味線の
佃 美代子さん

十七二十絃箏の
杉浦 充さん

和太鼓の
小林 太郎さん

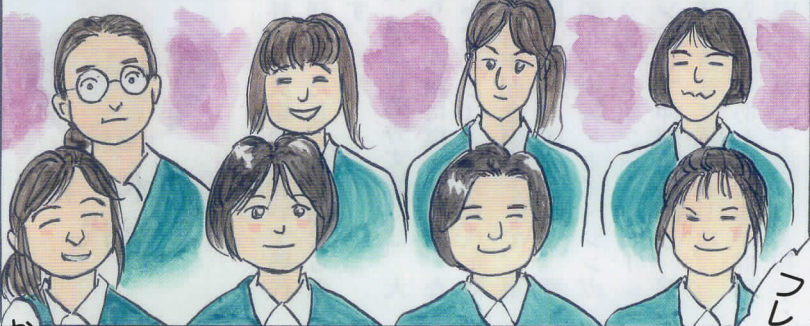
メチャ
マッチョだった!



フレッシュ

それに加えて 県立館林女子高校
箏曲部の生徒さん八名です。
(歴史のあるクラブだそうです)

かわいい



それぞれのソロ演奏の後は
みなさんの共演です

さくら 月と世界にひとつだけの花 月

デス

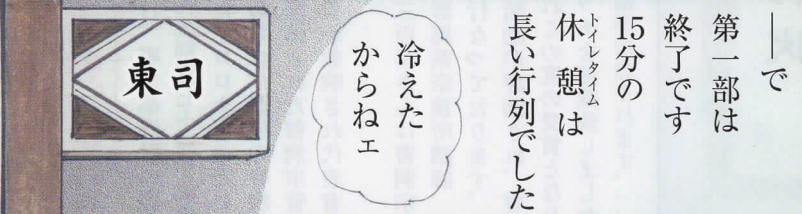
迫力でしたー



——で
第一部は
終了です
15分の
休憩は
長い行列でした

冷えた
からねエ

東司



※お寺ではお手洗いのことを東司（とうす）といいます

上州月夜野七福神会 発足

町内に約30キロの巡礼路



群馬県北部の旧月夜野町（現みなかみ町）にある七カ所の神社などを巡る「上州月夜野七福神会」（会長＝鈴木潔州・曹洞宗 嶽林寺住職）が発足し、七番札所の月夜野びーどろパークで四月三十日、開白法要が営まれた。鬼頭春二町長ら参拝者約三十五人が、巡礼興隆と地域振興を祈念した。

同七福神は約三十キロの巡礼路。札所は一番・嶽林寺（布袋尊）、二番・曹洞宗 如意寺（寿老人）、三番・本山修験宗 三重院（事務局長＝毘沙門天）、四番・三峯神社（恵比寿）、五番・茂左衛門地蔵尊 千日堂（福祿寿）、六番・

曹洞宗 常恩院（弁財天）、七番・月夜野びーどろパーク＝瑠璃光院（大黒天）。

月夜野びーどろパークは、ガラス製品を製造・販売する上越クリスタル硝子が運営する観光・体験施設。地域振興に向け、寺社以外にも参加するのが同七福神の特徴で、札所名は「瑠璃光院」とした。大黒天は二階に安置する。

法要は鈴木会長を導師に、札所の寺社による神仏習合の形式で執り行われた。三峯神社の高橋和昭禪宜が修祓で場を清め、三重院の村上圓信代表が七福神を開眼。入退堂では法螺貝を吹き鳴らした。鈴木会長が法語を唱え、『大般若経』の転読も修された。二胡奏者の李英姿氏の奉納演奏もあった。

記念式典で利根西部仏教会の山岸弘文会長が祝辞を述べ、「人の心を耕し、信仰を呼び起こす七福神巡りとなってほしい。巡礼をきっかけに参拝者が真実心



「上州月夜野七福神会」

- | | |
|---------------------|------|
| ○ 第一番 嶽林寺 | 布袋尊 |
| ○ 第二番 如意寺 | 寿老人 |
| ○ 第三番 三重院 | 毘沙門天 |
| ○ 第四番 三峯神社 | 恵比寿尊 |
| ○ 第五番 茂左衛門地蔵尊千日堂 | 福祿寿 |
| ○ 第六番 常恩院 | 弁財天 |
| ○ 第七番 瑠璃光院（上越クリスタル） | 大黒尊天 |



神仏習合のお勤めです



法要導師の鈴木住職



お祓いをする高橋和明さん

を持てるよう祈念する」と話した。
 発起人となって約一年前から計画を進めてきた鈴木会長は「七福神が大きな福を招いてくれると信じている」と力を込め、「県内で最も広いみなかみ町を歩いて回れば新たな発見もある。ぜひチャレンジしてほしい」と期待を込めた。

今後瑠璃光院で毎月一日、札所の輪番で祈祷が行われる。毎年五月の大型連休頃に大祭を営む予定。各札所のスタンプを集めると、大祭後の抽選会で記念品が贈られる。

(令和4年5月12日付 仏教タイムスより)



ドブリーデンでの祝賀会



お参りをされる李英姿さん



参拝第一号の常山朗ご一家



ご朱印スタンプ第一号の宮下修夫妻

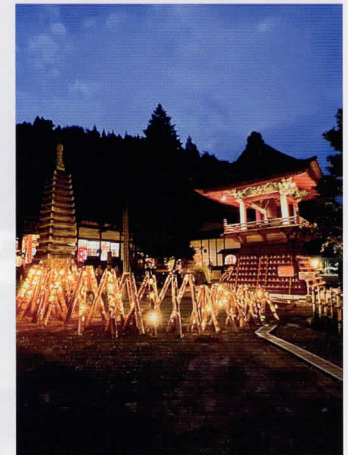
三年ぶりに指月会

中秋の名月の九月十日に先立って九日、群馬県みなかみ町の曹洞宗 嶽林寺で第十二回指月会が開かれた。多数のキャンドルが境内を照らす中、参加者らは雲の切れ間から時折見える幻想的な満月を観賞した。

同寺がある地域は「月夜野」とい、平安時代の歌人・源順が東国巡行の際、この地に昇った月を歌ったことに地名の由来があるという。もともとは同寺の主催だったが、みなかみ町観光協会や地元有志の協力を得て、町を挙げたイベントに発展。新型コロナウイルス感染症が拡大する前は県内外

から二〇〇人を超える人々が集まっていた。コロナ禍に伴って中止になり、今回は人数制限を設けて三年ぶりに催した。

法堂内には一七八三（天明三）年の浅間山大噴火の犠牲者供養のために铸造された千手観音立像が祀られた。法要の導師を務めた鈴木潔州住職は「皆さんのご先祖様、天明の大噴火で亡くなった方々の供養、併せて世界中の戦争で命を落とされた方々の菩提を弔わせていただいた。今生きているということより素晴らしい。こういう場を設けていただいた町の方々、皆さまに御礼申し上げます」と挨拶した。



見事な竹灯籠

十五年前に有志で小さな月見の会を始めたのがきっかけ。もうしばらくすると、月の中に咲く桂花（キンモクセイ）の香りが漂う。そんなことを思い浮かべながら、ゆつくりと楽しんでほしい」と呼び掛けた。

法要後は金子弘美氏が篠笛、李英姿氏が二胡を演奏。後半は満月を背景にした鐘楼堂で金子氏が篠笛の音色を境内に響かせた。参加者はキャンドルの揺らめきを撮影したり、演奏を鑑賞したりしながら静かな秋の夜を過ごした。

来賓にはみなかみ町の鬼頭春二町長や友好都市の茨城県取手市の藤井真吾市長、旧沼田藩主・土岐氏の子孫土岐百合さんご一家が招かれた。

（令和4年9月28日付 中外日報より）
（赤坂史人）

大峰山 嶽林寺

指月会

第十二回 月夜野のお月見
九月九日（金）
午後七時～十九時
お茶会・お月見法要・演奏

令和4年 9月9日（金）

入場券（お茶会付）2,000円
参加定員：先着100名様 市外観覧客の入場をお断りしております。

全額4年8月1日（月）9時販売開始
（お申し込みは先着順です。お申し込みは必ずお早めです。）
お電話での予約
TEL 0278-62-0401（みなかみ町観光協会）

主催：指月会実行委員会
後援：みなかみ町、みなかみ町観光協会、みなかみ町観光協会、大峰山 嶽林寺

実行委員会の深津卓也会長は「ここは『月夜野』といい、なんてロマンチックな地名なんだと思います」



浅間山大噴火の供養仏



金子弘美先生・李英姿先生



深津卓也実行委員長挨拶



ライトアップされた鐘楼堂

時代を超えて二人展 水墨画 明治から令和へ 青柳琴僊 青柳玲子

明治から昭和にかけて活躍した旧利根郡桃野村（現みなかみ町月夜野）出身の南画家 青柳琴僊（一八六七～一九六二）と同所谷川在住の墨彩画家、青柳玲子さんによる作品展、時代を超えて二人展「水墨のすゝめ」が九月二十四日から十月一日まで町内の嶽林寺（鈴木潔州住職）Ⅱ月夜野Ⅱ、小僧村Ⅱ上津Ⅱ、楽天亭 四季のギャラリーⅡ谷川Ⅱの三会場で開かれた。

の格天井にも作品を残している。昭和三十七年月夜野で九十四年の生涯を閉じた。

青柳玲子さんは、昭和三十四年沼田生まれ。父、千年さんは旧月夜野町生まれ。多摩美大卒。楽天亭を主宰し、墨彩画を指導している。

九月二十四日には、琴僊の菩提寺 嶽林寺で「水墨のすゝめ」が開かれ、青柳玲子さんが水墨画や琴僊の作品につ

いて話し、水墨画の実演を行った。講演に先立ち嶽林寺住職を導師に琴僊の没後六十回忌法要を実施した。

青柳玲子さんは大学生の時、同郷の琴僊を知り、花鳥風月、山水を描く水墨画を描き始めた話し「琴僊の絵が地元の寺に伝えられるのはほっとする。欧米人は禅にも水墨画にも興味を持ち、水墨画を禅アートと呼ぶ。八十五才も違う私も墨の世界にはまっています。唐から一五〇〇年も続く水墨画、時代を超える大切な何か潜んでいるのでは」と話した。講演後、水墨画の実演を行い、参加者も体験していた。

（令和4年9月25日・10月2日付
週間利根より）



青柳琴僊六十回忌



青柳玲子さん水墨画実演



楽天亭での琴僊画の模写



挨拶する平松庚三さん



小僧村での茶話会

嶽林寺でアートライブ

十月八日、「みなかみ 邦楽×人形芝居×朗読 アートライブ」が嶽林寺を会場に開催。

第一部では群馬県立嶽林女子高校の箏曲部とプロの邦楽が共演！

曲目は「さくら」、「世界に一つだけの花」。

高校生の演奏とプロの邦楽が見事にマッチして素晴らしい演奏でした。

第二部では人形浄瑠璃開演。

みなかみ町古馬牧の人形浄瑠璃（下牧人形）は義太夫節と三味線に合わせて演じる三人遣いの人形芝居です。

群馬県には八ヶ所（群馬県教育文化事業団 home page より）の人形浄瑠璃があるそうですが、その中でも三人遣いは少なく高度な技を必要とするそうです。

下牧人形は江戸時代の元禄年間、約三百年前に始まっています。

みなかみ町ではよく知られた下牧の人形芝居ですが、住職は一度も見た事がありませんでした。

演目は「傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段」。手前が三味線、お隣が義太夫です。

奥の格子戸越しに見える人形、手前の人形を操る技は見事でした！ 普段であれば見る事の出来ない人形芝居を拝見出来たのは本当に有り難い事でした。

機会があればまた下牧人形を見に行きたいと思いました。

第三部では宮崎りえ子さん、原澤美さんが出演され

「花坂爺さんがそのご」 とうなつたか知りたいたのかい？「てじろのさる」が上演。プロテクターで絵本を投影、そこに宮

崎さん、原澤さんが語りをいれプロの邦楽が演奏されました。

はじめて拝見させて頂きましたが映像、語り、演奏がひとつに融合し素晴らしい民話の世界が感じられました。

このイベントは、コロナ禍に甚大な影響を受けた芸術分野を支援するため多彩なジャンルを融合して各地の地域特性を盛り込み舞台にする「アートライブエール群馬プロジェクト」の一環として行われたのですが、普段であれば見る事の出来ない企画を拝見出来たのは本当に有り難い事でした。



下牧人形



原澤さんと宮崎さんの語り



女子高生とプロの共演



嶽林寺本堂での人形浄瑠璃



関係者一同

嶽林寺開基家小川城主供養塔建立

当山は室町時代永正二年（一五〇五）、
 渋川市雙林寺七世在天宗齋禪師を開山に迎
 え開創。

開基は小川城二代小川景祐公（嶽林院殿
 奇巖清俊庵主）と伝えられています。

五百十七年の長い寺歴を有し群馬県内の
 曹洞宗寺院の中でも古刹として知られてい
 ます。

開基家である小川城主小川氏は五代にわ
 たり当地を領有しますが天正十年（一五八
 二）、織田家の甲斐（山梨県）侵攻により
 武田勝頼が自刃、武田家が滅亡した頃に五



代小川可遊斎は上杉家を頼って越後に向か
 い上杉景勝の配下として活動、文禄年間（一
 五九二〜一五九五）越後で亡くなっています。

その後、上杉家臣として会津、米沢と
 移り、現在も山形県米沢市に小川家の方々
 はお住まいになっておられます。

元市立米沢図書館副館長青木昭博先生
 によると、小川家は米沢上杉家で二百五十
 石の中級武士団として存続、分家もあるそ
 うです。

現在、当山には小川姓を名のお檀家さ
 んはいませんが、こうした理由によるもの
 と思われまます。

平成四年、住職が嶽林寺に入山して以
 来、小川家の墓所が無い事、開基小川城二
 代小川景祐公（嶽林院殿奇巖清俊庵主）の
 位牌はあるものの、他の小川城主の戒名が
 わからず位牌が無い事は気になっておりま
 した。

先代植茶智龍方丈は「小川家の人々がこ
 の地を去り長い年月が流れている。その間
 になんらかの事情（伽藍の火災、水害など）
 により位牌、墓石が失われたのではないか」
 と話しておりました。

当山は記録でわかるだけでも五回の火災
 に遭い伽藍を失っています。

また、山間地にあるためしばしば水害の
 被害を受けておりその可能性は否定出来ま
 せん。

令和三年三月、小川城と関係のある石倉
 城主の末裔石倉家の皆さんから石倉家に永

く伝わったご仏壇をご寄贈賜り当山の『小
 川城資料室』に安置させて頂きました。

これを機に歴代の小川城主にあらためて
 戒名を授与し位牌を作り仏壇にお祀り致し
 ました。

そして今後の課題として小川城主供養塔
 建立が残されていましたが昨年、令和四年は
 小川城三代城主 小川秀康公（岡林斎）が
 大永二年（一五二二）に没してからちょうど
 五百年という大きな節目の年でありました。
 因みに小川秀康公は武門の誉高く沼田氏
 八騎の一人、猿ヶ京にあった大場山観音堂
 に額を奉納した事でも知られています。

仏縁が熟し今年の七月、小野総代長はじ
 め新総代三名（阿部総代・鈴木総代・関総
 代）の皆様のご寄進を賜り嶽林寺開山歴住
 墓地の一隅に供養塔五基を建立する事が出
 来ました。

八月十三日午前九時より小野総代長はじ
 め総代諸氏、小川城主祈願寺真言宗寿命院
 高野良賢住職、上組史蹟保存会高柳会長の
 ご臨席を賜り開眼法要を修行致しました。

初代小川城主 小川次郎景秋公
 龍雲院殿廣徳一純庵主
 二代小川城主 当山開基小川景祐公
 嶽林院殿奇巖清俊庵主
 三代小川城主 小川秀康公（岡林斎）
 寶泉院殿勇快岡林斎主（大永二年没）
 四代小川城主 小川景興公
 淨松院殿早雲全瑞庵主（大永四年没）
 五代小川城主 小川可遊斎
 禅海院殿大道可遊斎主（文禄年間越後にて没）

今回、あらためて小川城五代の供養塔

を建立、開眼法要を修行する事が出来た
 ことは嶽林寺として特筆すべき事と考え
 ております。

檀信徒の皆さんにもお参り頂ければ有
 り難いです。

「上州小川城供養塔建立」（読み）

五百有年天下轟（五百有年天下に轟き）

戈矛国境頭高名（戈矛の国境 高名を頭す）

小川宗将傳今古（小川の宗将 今古に伝え）

建立石塔威徳呈（建立す石塔 威徳を呈す）

（大意）

五百年以上前から天下に轟く小川城。

上州と越後の国境にあり戦きでその名を
 頭す。

小川城歴代城主の功は今も伝わり

この度建てられた石塔はその威徳呈して
 いるようだ。



小野総代長 焼香

大本山總持寺 御両尊御征忌会

焼香師を勤める

十月十二日～十五日、大本山總持寺で修行されました太祖常濟大師 二祖大現宗猷国師 例歳御征忌会式の二祖国師献供諷経焼香師を十月十五日早朝に勤めさせて頂きました。

御征忌とは大本山總持寺の御開山太祖常濟大師瑩山禪師 二祖大現宗猷国師峩山禪師のお二人である御両尊をご供養申し上げる大法要であり住職は十月十五日朝の法要導師を拝命、大本山

總持寺参拝団として十二名の皆さんに随行して頂きました。

参加者は

泰寧寺山岸弘文老師（全国嶽山会前会長）

常恩院都筑尚道老師（群馬県第十六教区長）

良泉寺上野良幸老師（法友代表）

大圓寺石黒玄章老師（真月会事務局長）

長慶寺織田澤智弘老師（末山代表）

小野登美司様（嶽林寺総代長）

九鬼真弓様

岩田弘美様

王成文様

薄田輝行様

チャミングダ龍静師

の皆さんに同行頂き心つよくとても有り難かったです。

本来であればもつと大勢の皆さんにご案内申し上げ参加をお願いしたいところでしたが、コロナ禍の為に諸般の事情もありこのような形にさせて頂きました。ご理解を頂ければ幸いです。

嶽林寺住職

鈴木潔州

太祖常濟大師

例歳

二祖大現宗猷国師

御征忌会式焼香師三請ス

令和四年七月十二日

光潤道主禪師
大本山總持寺貫首

石附周行



十月十四日午後二時半に大本山總持寺に到着。午後三時半、紫雲臺侍局で隨行の皆さんと石附周行禪師に拝問させて頂きました。

参加者おひとりおひとりをご紹介させて頂き、禪師様とお話する機会を賜り皆さん感激されておりました。

午後六時、三松閣「浄潔」の間で菓石の上げ膳をお世話になり、大本山總持寺渡辺啓司監院老師、山岸弘文老師、都筑尚道老師よりご祝辞を賜りました。

翌十月十五日、午前四時四十分より大祖堂で朝課に隨喜、隨行の皆さんも真前で焼香申し上げました。

午前六時から焼香師として二祖国師献供諷經の導師を謹修。

大勢の僧侶、関係者にご参加頂きたただ有難く長年の法愛に感謝申し上げながらのお勤めでした。

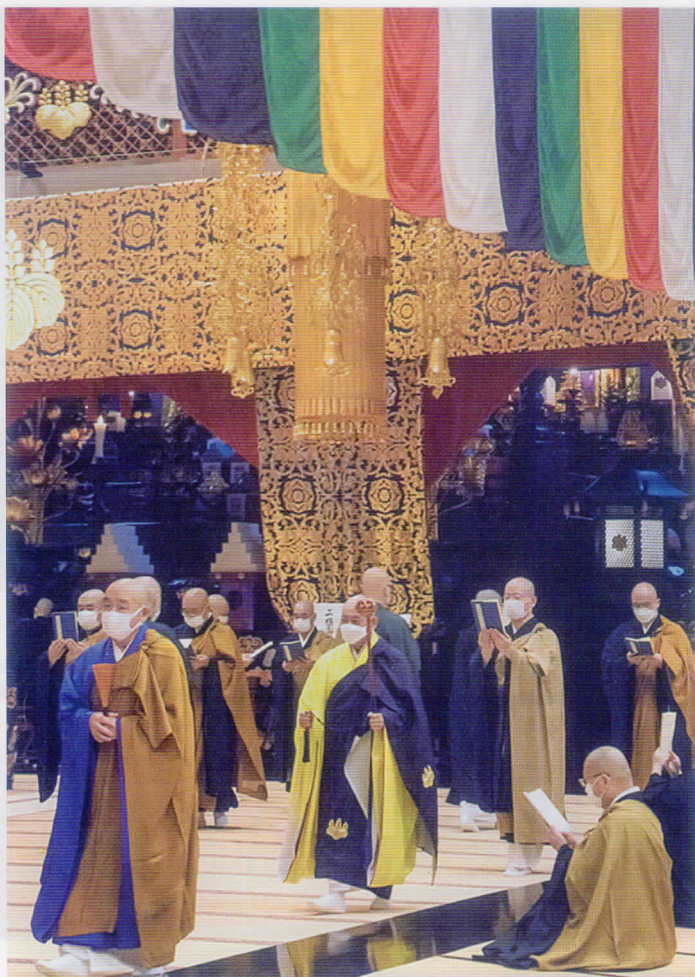
特に侍真老師の先導でご真殿（大祖堂正面の須弥壇上）に登壇、大本山總持寺御開山 太祖大師、二祖国師、五院開基、輪住諸大和尚、独住諸大和尚

の真前でお参りさせて頂きましたのは胸のあつくなる思いが致しました。千畳敷の大本堂でのお勤めはおかげさまで緊張しながらも無事に勤める事が出来ました。

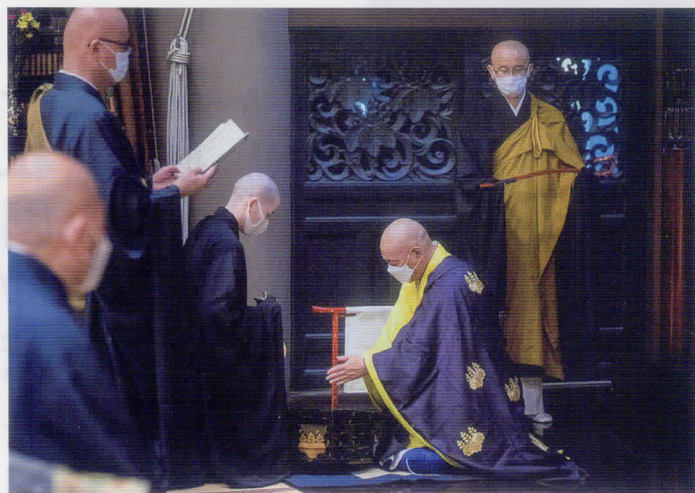
また、焼香師嚴修につきましては多くの方からお祝い、ご祝辞を賜り恐縮しております。

本堂に有り難う御座いました。

今後も尊いこの経験を忘れる事なく精一杯勤めさせて頂きたく念じております。



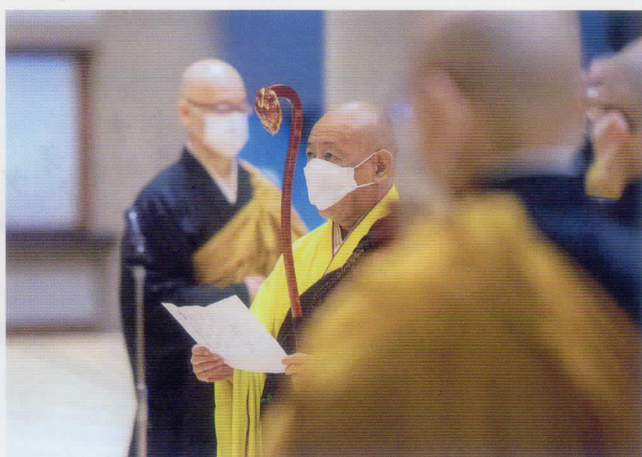
法要中の行道



登壇前に御洗手



お祝いの上げ膳



法語をおとなえする



石附周行禪師と



二祖國師獻供諷經法語

晋山慶事菊花濃 晋山の慶事菊花濃やかなり
 征忌此迎諸嶽峯 征忌此に迎う諸嶽の峯
 天地清秋全佛法 天地清秋全て佛法
 瑩峨門脈振禪宗 瑩峨の門脈禪宗を振う

石附周行禅師 晋山式礼にて

五侍者を勤める

二度とないご縁を賜りました。

曹洞宗大本山總持寺（神奈川県横浜市鶴見区鶴見）で十月十日～十一日、独住二十六世光潤道主禅師法雲周行大和尚晋山式礼が奉修され五侍者（臨時書状）を勤めさせて頂きました。

大本山總持寺は、昭和六十年から平成四年まで七年間修行にお世話になりました住職にとり原点とも言えるお寺

です。

元々寺院の生まれではなく何もわからず修行に行きましたので出来の悪い雲水でありました。

しかしながら素晴らしい役寮老師、良き先輩、同期生に恵まれ修行を勤める事が出来感謝にたえません。

当時のご住職は大本山總持寺独住二十一世梅田信隆禅師でありましたが忘

れる事のできない色々な事がありました。

現在、嶽林寺を守らせて頂いておりますが、その原点が大本山總持寺にあると言っても過言ではありません。

この度、大本山總持寺貫首石附周行禅師のご慈慮を賜り晋山式礼で師匠である石附禅師の五侍者（臨時書状）を拝命させて頂きまことに有難い事でした。

石附禅師が大雄山最乗寺に晋山された折にも五侍者を勤めさせて頂きました。

五侍者とは石附禅師の弟子のひとり

として選ばれ、お側にいてお手伝いをさせて頂くお役です。

禅師には多くの優秀なお弟子さん達がおられる中の配役は勿体無く恐縮している所です。

晋山式前日十月十日、安居所である成願寺随行からはじまり、当日十月十一日素晴らしい秋晴れに恵まれ盛大な法要が勤められました。

午前九時の山門法語、行列、仏殿法語、大祖堂での法要に石附禅師のおそばで勤めさせて頂き身に余る光榮でした。

群馬県からも大勢のご寺院、檀信徒が駆けつけ、懐かしい方々にお会い出来たのも嬉しかったです。

嶽林寺

鈴木 潔州 殿

慶弔会式禮配役 臨時書状 を

委嘱します

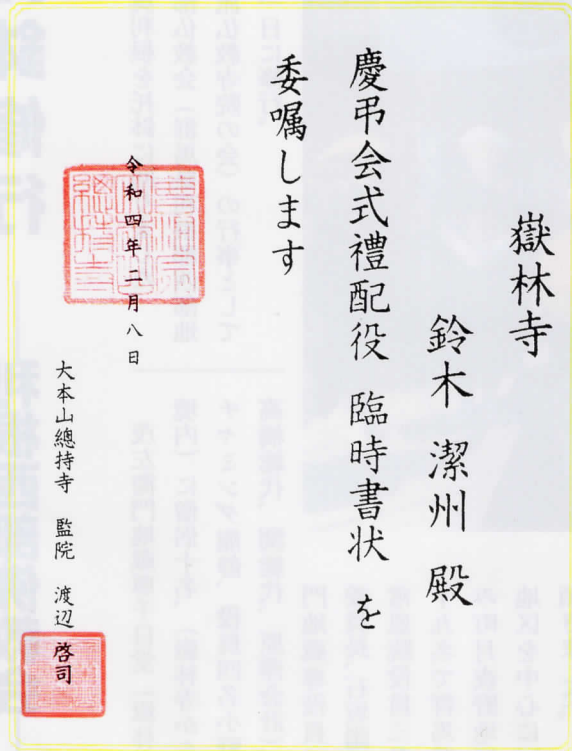


令和四年二月八日

大本山總持寺 監院

渡辺

啓司



石附周行禅師



臨時書状侍者控室



記念にお袈裟を拝受致しました

托鉢修行

利根西部佛教会

晩秋の奥利根を托鉢に回りました。
利根西部仏教会（群馬県利根郡西部地域の各宗派仏教寺院の会）の行事として十一月十一日に修行。



参加者の皆さんと

茂左衛門地蔵尊千日堂（嶽林寺飛び地境内）に僧侶十名、（嶽林寺からは住職、チャミンド龍静、役員四名小野総代長、高橋総代、関総代、原澤会計）、茂左衛門地蔵尊役員二名（林委員長、石坂副委員長）、常恩院役員三名の合計十九名で群馬県みなかみ町月夜野地区、下牧地区を中心に回らせて頂きました。



のぼりを持ち托鉢にまわる

午前八時半、利根西部仏教会会長山岸老師挨拶、嶽林寺小野総代長挨拶、千日堂前で全員でお勤めの後に出発。
月夜野、町組、上組、深沢、上牧、下牧、宮地、大竹、小竹、高平周辺とまわる地域が多いので、三班にわかれ地元の役員さんの先導を頂きながらの托鉢です。
托鉢前日に行われた広報車での放送、事前に配布させて頂きました案内を見て待つて頂いた方の姿も見え本当に有り難い事でした。
暦の上では立冬ですが良きお天気に恵まれての托鉢は気持ちの良いものでした。
托鉢では普段は通らない道を歩くことも多く、珍しい景色、美しい紅葉に目が奪われますが行としての托鉢ですのでお経を唱えながらひたすら歩きます。
無心の行である托鉢を合掌で見送る方々もいて、あらためて菩薩行であることを感じます。
午後一時ごろ常恩院に到着、本堂前で



茂左衛門地蔵尊で小野総代長挨拶

お勤めを修行。
庫裡で点心を頂き解散になりました。
約一万五千歩、十キロの行でありました。
年一回の行である托鉢は我々僧侶にとっても大切な修行です。ご協力を頂きました皆さんに心より御礼申し上げます。
尚、托鉢終了後に嶽林寺にお布施をお持ち頂きました方のお志も利根西部佛教会会長の泰寧寺に届けさせて頂きました。頂戴致しました浄財は仏教会からみなかみ町社会福祉協議会などに寄付致します。
昨年も寄付させて頂き、みなかみ町の町報に紹介されました。
ありがとうございます。

小川城講演会開催

郷土の歴史への関心の高さを感じました。

令和四年五月三日午後三時より「加沢記と小川可遊斎」（主催嶽林寺禅文化研究会）を開催。

講師は下條直人先生（沼田市川田地区地域資源活用研究会事務局長）にお



願いさせて頂きました。

毎年、ゴールデンウィークの最終日に嶽林寺開基家である小川城主小川氏についての講演会を行っています。

当山は小川城二代小川景佑公（嶽林院殿奇巖清俊庵主）を開基に、室町時代永正二年（一五〇五）開創されています。

ます。

上州は飛び抜けて力のある武将がいなかった為に、越後の上杉、甲斐の武田、小田原の北条による侵攻が続き目まぐるしく情勢が変わっております。

小川氏は元々沼田氏の一族でしたが、沼田氏周辺で内紛があり、二代城主も落命したと伝えられています。

その後、三代をついだ小川岡林斎は沼田八騎のひとりとして名高い勇猛な武将でした。

下條先生は郷土史について関心が高く、特に加沢記についての研究を行われています。

今回、先生に作成して頂きました加沢記の資料にも大永二年（二五二二）、当時猿ヶ京にあった大場山観音堂に詣でた上杉謙

信が見た絵馬に、小川岡林斎の名前があったという一文が取り上げられておりました。

小川岡林斎は当山草創期の城主であり、本年五百年を迎える大永二年に亡くなっており、嶽林寺開創時代を物語る重要な事項として着目していたところでした。

その様な考えもあり「加沢記と小川可遊斎」を演題としてお願いさせて頂きました。

本来であれば、この講演会開催を事前に告知し多くの方にお越し頂きたかったのですが、コロナ禍でありそうした事は一切行わず関係者に声をかけただけでありました。

いわばクチコミでの案内しかなかったのですが、十三名も集まって頂き有り難かったです。

来賓として沼田市川田地区地域資源活用研究会深津太一会長、みなかみ町の歴史と文化を学ぶ会倉澤勸会長のご祝辞を賜り、講演後、嶽林寺歴史顧問小野瀬和男先生のご挨拶を頂きました。

講師をお世話になりました下條直人先生、お集まり頂きました皆さまに厚く御礼申し上げる次第です。

来年の小川城講演会は、皆さんにお越し頂きたいと考えております。

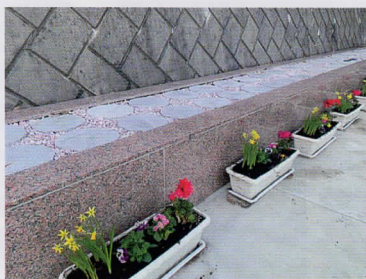
樹木葬型墓地完成

墓地に関して色々な選択肢があっても良いと思い樹木葬型墓地を作りました。檀信徒からの質問や問い合わせから肌身を持って感じておりましたが昨年形にする事が出来ました。場所は本堂の西側にある坐禅堂の裏と言う好立地です。両脇に桜の木を植えるべく花を絶やさないようにプランターを並べ季節の植物を植え込んであります。

関心のある方がおられましたらお寺までご連絡下さい。



本堂の西側です



二霊ずつお骨を納めます

青柳琴僊の掛軸 ご寄贈賜る

まことに有り難い出来事がありました。

令和四年九月二十八日、「時代を超えて二人展」に夕方近くお見えになられた三人の女性。

掛軸や写真などがはいっている袋をお持ちになられている。

はじめてお会いする皆さんでしたが、展覧会見学の先客がいてしばらくお待ち頂きました。

他のお客さまに宝蔵の二階を説明させて頂いている間、皆さんで楽しくお喋りされていました。

ようやく、手があきご挨拶申し上げたところ、青柳琴僊の妹とみさんのお

孫さん桑原久美子さん(沼田市)との事。

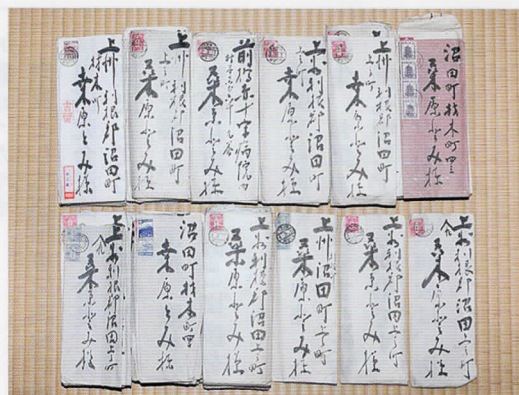
「今日は琴僊さんの写真と掛軸、書簡を持って参りました。お寺さんに寄付させて頂きます」と思ってもない申し出にびっくりしました。

写真は青柳琴僊翁関係の本では拝見しておりましたが、生写真を見るのは初めてです。

掛軸は五本、書簡は青柳琴僊翁が妹のとみさん宛、とみさんの旦那さんに宛てたもので約百通が箱にぎっしりと入っています。

いずれも貴重なものと感じられました。

「ありがとうございます。しかしながら貴家に伝わったものですから、今までのようにご自宅で大切にされた方がよいのではないのでしょうか？」とお伝えしたところ「家に長年掛けてあつた写真や掛軸ですが、将来の事を考えるとずっと大切にさせて頂けるところに



あるのが一番いいのではと思います。持つて来ました」と。

熟慮相談の上、有難く頂戴させて頂きました。

その後、ご本尊真前に青柳琴僊翁遺影、掛軸、書簡をお供えし追善供養法要を修行。皆さんにお参り頂きました。



た掛軸なども会場に展示させて頂きました。

尚、十月六日、お礼に材木町のご自宅を訪問。この時も青柳琴僊翁掛軸二本、沼田万華鏡役三十冊をご寄贈賜り桑原久美子さんには心より御礼申し上げます。

右の写真は展示会場の嶽林寺本堂で撮りました。

後方に展示してある大きな掛軸は明治二十二年に青柳琴僊翁よりご寄贈賜りました「曼荼羅」(通称 地獄極楽図)です。



ご寄贈いただいた青柳琴僊の掛軸

「時代を超えて二人展」——青柳琴僊、青柳玲子——が開催されおかげさまで多くの方々にお越し頂き本当に嬉しい事でした。

没後六十年を経ても青柳琴僊翁を慕う方々が多い事事があらためて感じられます。

この度、ご寄贈賜りまし

子供坐禅会の思い出

コロナ禍、毎年八月に行っていた嶽林寺子供坐禅会一日一休さんも暫くお休みが続いています。皆さんから坐禅会再開を望む声がありますが、現状ではなかなか踏み切れなく残念です。

そんな中、ご法事でお見えになられた森原の大塚邦男さんご一家。庫裡広間に飾られている子供坐禅会の写真を見て「これ自分です。懐かしいなー！」と声を上げられました。

嶽林寺子供坐禅会も開催二十五回となり、多くの子供さんにご参加頂きました。当時は小学生だった少年が立派な青年になりました。

法事では子供坐禅会の時に勤めていた木魚を打って頂きました。その様子を拝見し大塚家のご先祖様もお喜びと感じました。



お寺ではお檀家さんと長いお付き合いをしています。嬉しい法要になりました。



大塚さんご一家

安名の授与

あんみよう

令和四年九月十四日、神奈川県相模原市の吉田家を訪問させて頂きました。吉田家のご主人は月夜野のご出身であり神奈川県に転居後も当山のお檀家さんとして大変お世話になっております。

毎年、七月にはお盆のお勤めにお伺いしておりこの度、ご夫妻から安名を授与して欲しいとご依頼がありました。

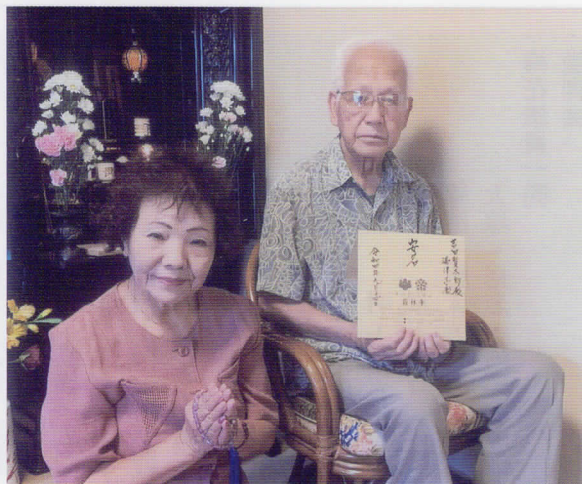
生前に頂く戒名を安名と言ひ仏教を深く学び行を積んだ証として差し上げるものです。

奥様はご実家が神仏に関係したお仕事をされており、平生より大変信心が



篤い方です。

吉田家ご仏壇の前でご夫妻に安名授与の法要をお勤めさせて頂き、とても喜んで頂きました。



令和四年二月六日「人生の楽園」(テレビ朝日 ナレーター 西田敏行、菊池桃子)、令和三年十二月十九日「出動ー謎ときヒーロー」(TBSテレビ 劇団ひとり)で嶽林寺が紹介されました。

「人生の楽園」では当山坐禅会会員大木栄治さんの月夜野いろり庵が取り上げられ当山坐禅会の様子が放映。

「出動ー謎ときヒーロー」では当山弟子チャミンダ龍静さんと後閑の白い塔が取り上げられ、当山も紹介されました。

多くの皆さんから「見ましたよ」と声をかけて頂きました。

太平洋戦争（ウクライナとロシアの戦争に思う）

私は、満州の赤峰で昭和十二年五月に生まれました。奉天神社の神主さんが、私の名付け親であり、矩雄の矩は論語の為政第二、の六十にして矩を超えずから取ったと聞いています。

終戦間近の授業はまともではなく、山に行つて松の木に魚の骨の形の様な模様を彫つて油（松根油と言つて石油の代用品）を取つたり、わら人形の案子子を兵隊さんの指導で竹槍で突いたり、水の入ったバケツを両手に長時間持たされ廊下に立たされたり、時には往復ビンタを貰つた事も有ります。級長だった私は生徒の誰かが罰を受けると一緒に受けることになるのです。いわゆる連帯責任でした。

昭和二十年八月十五日お昼前、私家の前の川で鮒取りをしていた時、使いの人が大事な話を聞くのですが本家に来る様にと言つてきました。敗戦を告げる天皇の玉音放送でありました。

日清・日露戦争のことを聞き育った私は文字どおり軍国少年であり、将来何になるかと聞かれると、胸を張つて陸軍大將と答えたほどであったが敗戦で大きく変わりました。ギャップは大きかったが、破壊と人殺しに過ぎない



所さんご家族

所 矩雄

悲惨な戦争は絶対にしてはならないと覚悟しました。ロシアのウクライナ侵略を見ると科学の進歩に心が付いていません。論語に人が一生守るべきものは何かと聞かれた孔子がそれは忠恕だと答えました。忠は真心、恕は思いやりであり、世界の誰もがこれを守れば戦争は無くなります。心してこれからも生きていきたいと思ひます。（続く）

お檀家の所さんから貴重な体験をご寄稿頂きました。次号では所家と石原莞爾（陸軍中將、満州事変首謀者として知られる）について掲載します。



● 嶽林寺所蔵の供養仏

浅間山大噴火（天明三年八月五日）供養仏の千手観音立像が、婦恋郷土資料館に展示されました。（令和四年八月九日・八月十五日）

■ご寄付御礼

住職権大教師補任御祝 小野登美司殿
小川城主供養塔五基 小野登美司殿

阿部 康殿
鈴木 勲殿
関 泰廣殿

青柳琴僊写真・書簡・掛軸・沼田万華鏡
沼田市 桑原久美子殿

古机 埼玉県 本多幸三殿

■奉仕御礼
電気諸工事等 高橋知住殿
庭整備 阿部孝治殿

寺山・庭整備 薄田輝行殿
縫い物 中関みえ子殿

以上の方々より尊い奉納品、奉仕を賜りました。紙上より厚く御礼申し上げます。

嶽林寺役員

住職 鈴木 潔州

寺族 植茶三百喜

総代 小野登美司

倉澤 立美・阿部 正晴

河合 幸雄・高橋 知住

阿部 隆治・阿部 康

鈴木 勲・関 泰廣

廣井忠三郎

鈴木 初夫

原澤 勇夫

矢野 義夫・後閑 善夫

佐藤 隆志・川端 泉廣

中閑 実・山岸 史夫

高橋 知住・高橋 広幸

常山 一郎・鈴木 達也

森 健治・田中 孝則

杉木 利男・勝見 良三

山田 和男・原 幸弘

倉澤 重男・斎藤 幸市

鈴木 里子・石坂 幸男

鈴木智恵子・吉澤 宏幸

石坂 明・石坂 達夫

小野 章・小野 一彦

篠田 勝広・石坂 和利

大塚 裕志・阿部 隆治

梅花講員一同

坐禅会

會長 河合 潔・他会員一同

嶽林寺禅文化研究会

會長 阿部正志・他会員一同

（順不同）